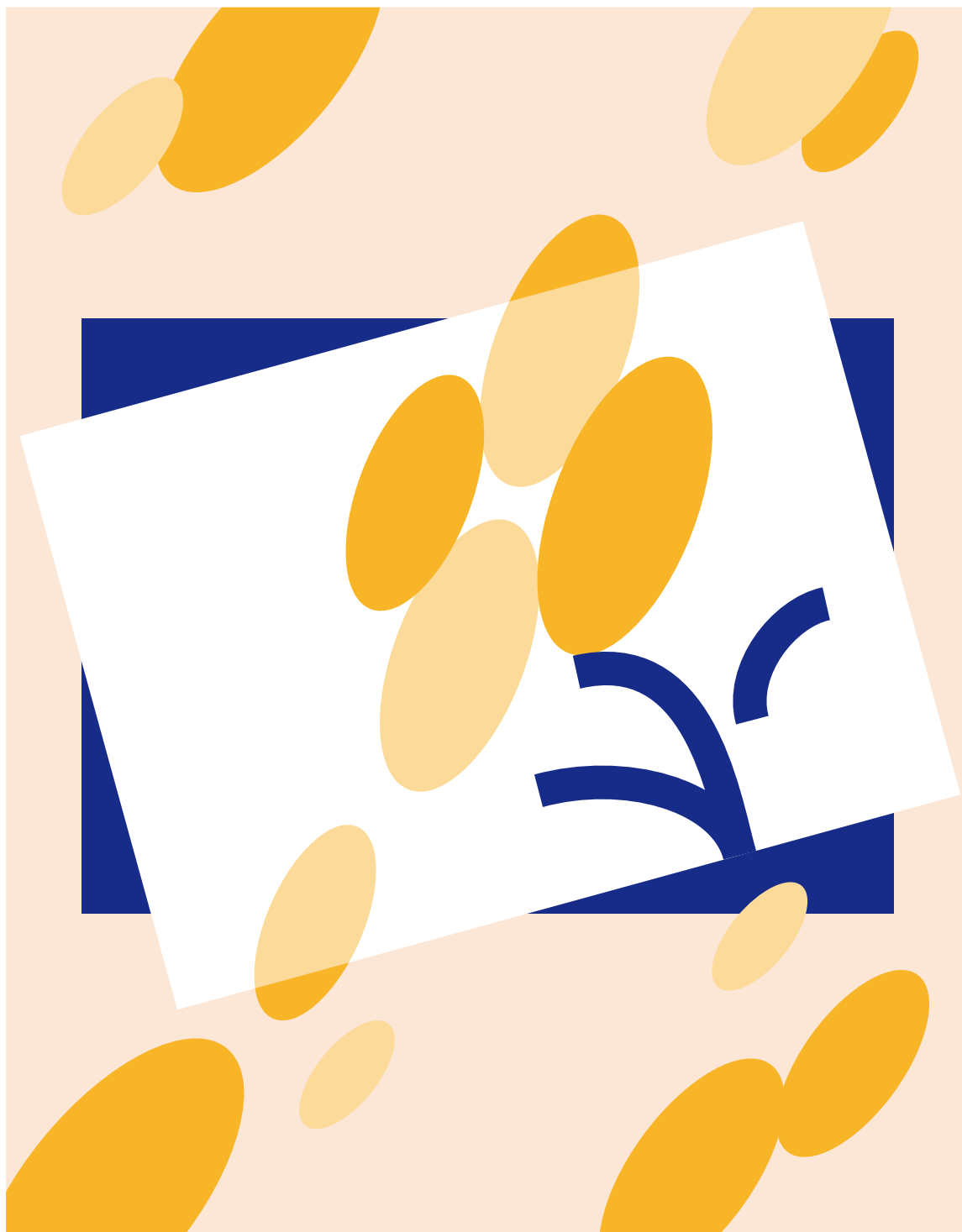




769

2023
8.22

フォトコンテスト受賞作発表



NISSEIKAN NEWS 日精看ニュース

こころの健康を通して、だれもが安心して暮らせる社会をつくれます。

今回ご応募いただいた
作品を動画にまとめました。
ぜひご覧ください！



2023年度にっせいかんフォトコンテスト動画
<https://youtu.be/09TurTZDz7E>

審査概要

作品の募集は、本誌とチラシ、ホームページ、公式SNSで実施。応募総数96点を対象に、2023年5月15日にオンラインで審査会を開催いたしました。

審査員(敬称略)

吉川隆博(日本精神科看護協会(以下、当協会)会長/東海大学医学部看護学科)、山本哲生(当協会副会長/社会福祉法人玉医会 障害者支援施設たまき荘)、工藤正志(当協会副会長/医療法人久盛会秋田緑ヶ丘病院)、東 美奈子(当協会副会長/訪問看護花の森)、西岡由江(当協会業務執行理事/社会福祉法人ファミーユ高知高知ハビリテリングセンター)、中庭良枝・草地仁史(当協会業務執行理事)、小池沙友里(当協会こころの健康推進部)、宮口聖恵(過去受賞歴多数の殿堂入り作者)※審査会当日の役職を記載しております。

NISSEIKAN

2023年度

にっせいかん フォトコンテスト 受賞作発表

PHOTO CONTEST 2023

精神障がい者の日常を豊かにする写真の表現活動と、それを支える看護職を応援する写真コンテスト企画が今年度からリニューアル。厳正なる審査を経て入賞した作品7点を、受賞者へのインタビューと共にご紹介します。

にっせいかん賞



「ガーコの春」 2007年撮影

作者/落合育則さん

推薦者/湯浅弘幸さん

(宮城県・医療法人清芳会井上病院デイケア)

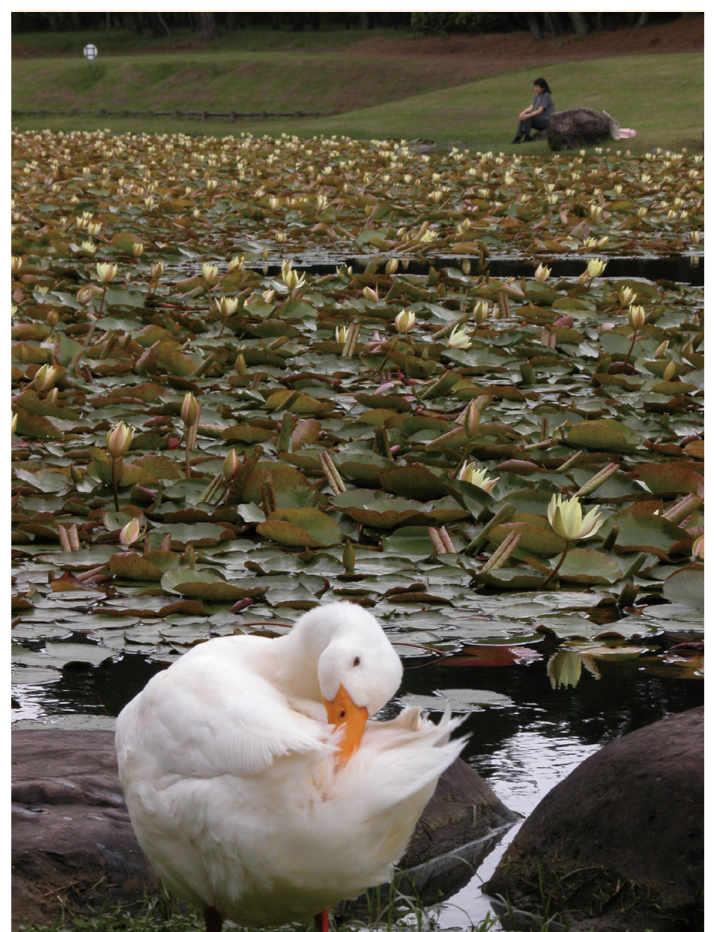
受賞作家の落合さん(左)と、
推薦者の湯浅さん。

作者より▶ この度は大変立派な賞をいただき、ありがとうございます。デイケアの仲間たちからも祝福の言葉をかけてもらい、心からうれしく、感動しております。

この写真を撮ったのはもう20年近くも前のことです。古事記に登場するイザナキ・イザナミにゆかりがあると伝えられる、阿波岐原森林公園内の「みそぎ池」に出かけて撮影しました。一面に咲くスイレンはきれいでしたが、「案外なんてことはない池だなあ」と感じたのが第一印象。しかしながら近づいてみると奥行きがあり、不思議な魅力を感じたときに、ちょうど目の前のアヒルがポーズを取ってくれました。池の向こう側には静かに座って水面を見つめる女性の姿も。まさに理想的な構図が完成しました。写真を撮らせてくれたアヒルと女性に感謝したいです。

普段は、花など自然風景にカメラを向けることが多いです。同じ花でも、撮り方によって美しさは格段に変わる点にやりがいを感じます。撮りためた写真は1万8000枚を超えますが、大きくプリントして耐えられる写真はわずかです。

この作品のように、奥行きのある世界を表現できる写真を撮れるように、これからもチャレンジしていきたいと思います。

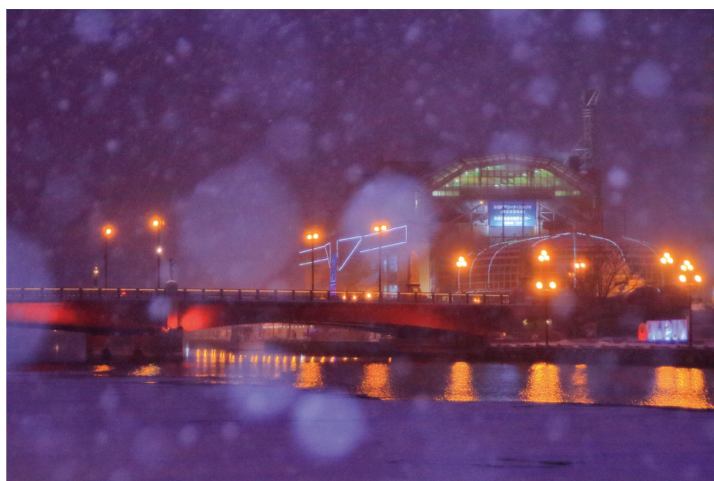


推薦者・湯浅さんより▶ 落合さんの受賞のニュースを、デイケアの利用者、スタッフみんなで喜びました。落合さんもうれしそうに写真の話をしてくださって、ほかの利用者から「オレもやってみようかな」という声もあがるなど、活気づいています。

ドリーム賞

「雪降る夜」 2023年撮影

作者／ただ写真好きないまいさん
(北海道・訪問看護ステーション縁)



作者より▶ 日ごろ利用している訪問看護ステーションの代表の方から推薦を受けて、コンテストに応募してみました。写真の技術は独学で身につけました。私は解離性健忘の症状があり、写真を撮ったときの記憶は曖昧です。でも、写真に残せば、確かな記録として見た風景が残ります。弱視で実際の風景はよく見えないので、一度にたくさんシャッターを切り、自宅に戻ってからパソコンに映し出して吟味します。この日は雪がよく降る夜で、釧路川のほとりの灯りがきれいでした。ぼかした雪に色にがにじむように加工をして幻想的なイメージで仕上げました。

写真を撮っているときは無心になれるので、こころが楽になります。資金が貯まったら、都会に出かけて、もっとネオンギラギラの風景を撮ってみたいです。

ユニーク賞

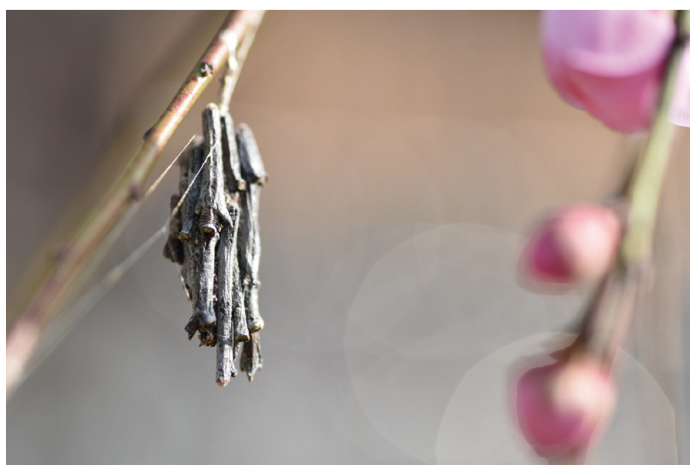
「そろそろ出ようか」 2020年撮影

作者／t.h.tさん
推薦者／原田真紀さん
(山口県・岸津苑訪問看護ステーション)

作者より▶ いつもお世話になっている訪問看護師の原田さんから背中を押してもらい、今年も応募をしました。以前、受賞した際には大きなサイズで引き伸ばした作品を記念にいただき、祖母が喜んでくれました。

梅が芽吹く季節のミノムシは、それだけでメッセージになると思い、背景に余計なものを入れず、シンプルな構図で撮影をしました。長い冬の季節を耐えて、「そろそろ出ようか」と動き出すミノムシは、こころの病気を乗り越えようとする人の姿にも通じるものがある気がします。今後は、野鳥や蝶など、動く被写体の撮影にも挑戦してみたいです。

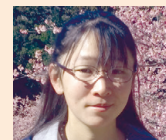
推薦者・原田さんより▶ 受賞おめでとうございます。応募された後は、私もワクワクドキドキの日々でした。こころに響く写真を、皆さんと共に鑑賞できることをうれしく思います。



ストーリー賞

「ふるさと」 2022年撮影

作者／ずーさん
(神奈川県・公益財団法人積善会曾我病院)



作者より▶ 通っているデイケアでチラシをもらい、初めて応募したコンテストで初受賞。記念の盾もいただいてうれしいです。両親も「よかったね」と喜んでくれました。

この写真は、私が生まれ育った町の近くで毎年開催される「開成町あじさいまつり」が最盛期を迎える直前の風景です。紫陽花と田んぼのコントラストがきれいだったので、紫陽花に焦点を絞りながら、田んぼの水面も写るように工夫しました。「私のふるさとがそのまま写っているな」と感じられるお気に入りの1枚になりました。

デジタルカメラで写真を撮る楽しみを知って15年になります。これからも、気の向くままに写真を撮ってみたいです。

素敵で賞

「つつじ」 2023年撮影

作者／つーちゃんさん

推薦者／城本詩織さん

(長崎県・医療法人慶友会西海病院)



作者より▶ コンテスト応募のきっかけは、デイケアのグループ活動で写真を撮りに出かけたことでした。被写体は、ふと目に留まった花です。小さくてかわいい花が集まって一つの大きい花のようになっているのがきれいだったので、その様子が伝わるように撮りました。まさか受賞できるとは思っていませんでしたので、知らせを聞いてとても驚くのと同時に、喜びが溢れてきました。

自分が「かわいい」「きれい」と感じたもの、「絵になるなあ」と引き寄せられたものを撮ってみて、光の入り具合や構図をうまく写しとれたときはうれしいです。今後は人物の撮影にもチャレンジしてみたいです。



審査員特別賞

「ちいさな秘密」 2018年撮影

作者／浅井誠さん(福岡県・川上クリニック)



作者より▶ 写真を撮始めて30年ほどになります。私にとって、写真は街歩きの楽しみを深めてくれるもの。カメラを手に、路地裏の雑多な道を歩いていくと、あちこちに魅力的な風景が目飛び込んできます。同じ風景でも、肉眼で見ると、カメラのファインダーを通して見るのでは、全く受け取り方が変わります。見た瞬間に構図は決まり、四角に切り取った世界がいきいきと動き出します。この作品も街歩きをして偶然見つけた店の窓辺のオブジェです。

地球は大きな百科事典のようなもので、その1ページ1ページをめくって、お気に入りの切り抜きを集めたスクラップブックをつくるような。そんな感覚で写真を撮っています。長く暮らした福岡の街はそろそろ歩き尽くしたので、昔働いていた大阪に友人を訪ねてみようかと、ぼんやりと計画をしているところです。



アイデア賞

「飾られて」 2017年撮影

作者／風野音さん(北海道・就労継続支援B型Lilas)

【審査会であがった感想】

雪の重みで下がったと思われる木の枝を中心にフレーミングした構図がユニークで、発想の豊かさを感じます。この作品を通じて、作者が写真を好きで表現活動を楽しんでいる様子が伝わってきます。

「飾られて」というタイトルにも風情があり、観る人の想像をかき立てます。



みんなの 学術集会



第30回 日本精神科看護専門学術集会 まもなく受付開始！

9/1(金)よりマナブルで申込受付を開始！

お申し込み方法は、日精看オンライン「学術集会専用ページ」で！

<http://jpna-gakujutsu.jp/senmon/>

会期：11月22日(水)～23日(木・祝)の2日間

会場：ソニックシティ(埼玉県さいたま市)

宿泊はさいたま市がオススメ！



QRコードを読みとって
アクセス！アクセス！

学術講演 発言要旨

虐待行為に相当する現場での行為とは？

～患者さんが安心して医療を受けられる場を創るために～

今日もどこかで、患者さんは納得のできない1日を過ごしているかもしれません。こうした心配をしなければならないくらい、精神科看護の現場は混沌としています。虐待は他人事ではありません。このたびの法改正は、私たち精神科医療従事者に対して、「私には関係ない目を背けてはならない」という強いメッセージが込められているのではないのでしょうか。

精神科看護のこれまでもを振り返りながら、^{いま}現在、私たちにできることを共に考えたいと思います。



【講師】

畠山卓也(はたけやま・たくや)
学校法人駒澤学園駒沢女子大学
看護学部 准教授

共同研究マッチング 登録開始！

共同研究マッチングがスタートします。研究者の皆様、ご登録をお願いいたします。マナブルで【共同研究マッチング】と検索してご登録ください。

詳しくは、『日精看ニュース』2023年2月22号P.4をご確認ください。

ご当地情報

秩父の観光スポット



秩父神社



秩父まつり会館

西武鉄道のCM「ちょっとラビユーで秩父まで」で話題の秩父は、1年を通じて楽しむことのできる県内でも屈指の観光スポットです。専門学術集会のある11月は紅葉が見ごろです。また秩父神社は多くの参拝者が訪れる歴史ある神社で、社殿は徳川家康公から寄進されたものです。秩父神社の例大祭である秩父夜祭も日本三大曳山祭として有名です。夜祭に参加できなくても、「秩父まつり会館」ではいつでもその迫力を体験することができます。ぜひ足を運んでみてください。

春日良峰(かすが・よしみね) 埼玉県支部副教育委員長
医療法人仁和会埼玉江南病院 看護部長

看護研究助成費の公募

公募期間 2023/9/1(金)～10/31(火)

日精看は、精神科看護の学術の向上に資する目的で研究助成費の交付を実施しています。次の要領により交付対象となる研究を募集します。研究助成費交付規定・応募書類は、日精看オンライン「学術集会」のページを確認してください。

【応募資格】研究代表者および研究分担者は会員に限る。

【研究の課題】精神科看護の学術向上に資するもの。

【助成金】30万円を限度とする。

【研究期間】承認の日から2年以内とする。

【応募先】右記メールアドレス宛にお送りください。gakkai@jpna.or.jp

看護研究

ウォーミングアップ

#13 論文の全体構成(その2)



木戸芳史(きど・よしふみ)
浜松医科大学医学部看護学科 教授
日本精神科看護協会 業務執行理事(静岡県)

前回の緒言(はじめに)に続き、今回からは「方法」以降についてお話しします。ただ、この連載に割り当てられた文字数では「ここにはこんなことを書いてください。例えばこんな感じの文章が理想的ですね」ということをお伝えしきれないのが悩ましいところです。みなさんが知りたいのは、きっと「ここには具体的にどんなことを書いたらよいのか」ですよね。

研究方法を本格的に学んでいる大学院生の多くが「執筆ガイドライン」に沿って論文を書いていることはご存じですか？ 多くの学術雑誌では、量的研究であれば STROBE や CONSORT、質的研究であれば COREQ などといった執筆ガイドラインに沿って書かれていることが推奨されているからです。次回の連載では、これらの執筆ガイドラインの入手方法や活用方法についてお話しします。

最終回 | 導入までの道のり 総まとめ

石橋病院（北海道）におけるラダー導入をリアルタイムに伝えてきたこの連載（2021年9月号～）は、今回で最終回となります。院内でラダー導入を考え始めたところから、実際に導入するまでの流れとポイントをまとめました。



01

導入のきっかけ

石橋病院看護部では、院内教育を見直したいと思っていたタイミングで日精看版ラダーの情報があった。看護部長、師長、主任と一緒に考え、ラダー導入を決意！

02

導入の目的の明確化

目的の明確化には時間をかけ、何のためにラダーを導入するのか、師長・主任会のメンバー全員が納得できるまで話しあった。石橋病院看護部の大事にしていることを盛り込んで明文化！

03

導入までの計画を立てる

導入を考え始めてから運用開始までは2年を予定。実際の運用をイメージして計画を立てた。

06

看護実践力の評価方法の検討

評価は何段階にするか？スタートレベルは全員レベル1から始めるか、個別にスタートレベルを決めるか？レベルクリアの要件はどうするか？

05

年間運用フローの作成

目標面接～中間評価面接～期末評価面接～研修模索期間
それぞれの時期にどのような準備が必要かを検討。

04

ワーキンググループの立ち上げ／小グループの作成

ワーキンググループは師長・主任会で構成。小グループは「評価方法検討グループ」「記録書類作成グループ」「学習内容検討グループ」に分かれて取り組む。

07

ラダー導入についてスタッフに説明する

説明はいいねい！ラダーとは何か、何のためにやるのか。病棟ごとに説明会を開催。全員に説明が行き渡るように、くり返し行った。

08

評価の練習と課題の共有

看護実践能力の項目の共通理解ができていないと評価が難しいことに気がついた。評価者によって「厳しめ評価」「甘め評価」など偏りがあった。客観的な評価のために、評価面接では被評価者に実践を語ってもらう大切さを共有した。

09

導入開始！スタートレベル確定のための評価面接

面接を行い、個々のスタートレベルを確定し、目標設定をした。

10

レベルに応じた学習内容の検討

院内研修、院外研修（日精看支部研修）、オンデマンド研修に、レベルを提示した。

ラダー導入について



師長・主任の意見から

- ・教育にはベテラン看護師が実践モデルとなり、それに続く人々が自分もやってみようという流れをつくる必要だと感じていた。
- ・ベテラン看護師でも完璧ではなく、不安もあるはず。ラダーで自分の課題や目標をもつことが大切だと思い、導入に賛成した。
- ・評価面接でそれぞれのスタッフの看護への思いも聞くことができ、これまで知らなかった一面を知ることができた。



スタッフからはこんな意見も！

- ・古い時代の考え方や長年やってきた看護技術を見直すきっかけになった。
- ・課題や目標などを師長、主任と話しながら確認できるのがいい！

岩代さんから

ラダー導入については、もちろん賛成の意見だけではなく、石橋病院の「優しさあふれる看護」を実践するために、見直しを重ねながらラダーを活用し続けたいと思います。長い間、連載をお読みいただき、とても励みになりました。次号より新連載「全国ラダー行脚」を始めます。お楽しみに！



岩代 純（いわしろ・じゅん）
医療法人北仁会石橋病院 副看護部長
（教育担当）、精神科認定看護師、
北海道支部教育委員長（北海道）

日精看では7月1日を「こころの日」、7月を「こころの日月間」と定め、こころの日イベントや「こころの看護便プロジェクト」などの啓発活動を行っています。今回は高知県の取り組みを紹介します。

高知県支部



竹林子(たけばやし・たかこ)
高知県支部こころの日委員長、
医療法人聖真会渭南病院
看護部長(高知県)

●中高生のための精神保健をテーマに

高知県支部では中高生のメンタルヘルスに焦点を当て、その背景を理解し、参加者のつながりを支えあう力にしていくと、7/8(土)に「中高生のための精神保健シンポジウム」を開催しました。会場には、高校生や発達障害の当事者、看護師、保健師、大学関係者などさまざまな立場の方が来場されました。

●若い人たちと向きあうシンポジストのお話から

当事者のご家族である大坪さんは、息子さんを育ててきた実体験を語ってくださいました。夫との価値観のずれや子育てで悩んでいた大坪さん。看護師に「赤の他人ですから、意見が合わないのは当然ですよ」「いままでよくがんばってきましたね。息子さん、いまままで大丈夫ですよ」と言われ、肩の力が抜けて楽になったというお話、とても印象的でした。

太平洋学園高等学校の光富先生は、不登校や心身に不調を抱える子どもたちに対して個別性を尊重した教育プログラムと教育活動を紹介。こうち若者サポートステーションの横畑所長は、就労が難しい若者たちの就労支援や日常生活のサポートなど幅広い活動を紹介され、普段から医療や教育と連携する大切さが伝わってきました。

精神科専門医の山崎先生は、広い視野から精神保健に関するお話をされました。なかでも印象的だったのは、「人を傷つけたことがある人にしか、人を守ることができない」という言葉でした。相手とかかわるなかで「自分の発言が相手を傷つけてしまったのではないかと」悩みながら生きること。そのような心の機微を体験することが通常の発達であること。悩んでいることをすべて病気ととらえるべきではないこと。そして、相談に乗ってもらえる場所があれば解決できることは多く、「今後、看護師に

シンポジスト

大坪豊寿(当事者家族)
光富 祥(太平洋学園高等学校 校長)
山崎正雄(高知県立精神保健福祉センター 精神科専門医)
横畑 健(こうち若者サポートステーション 所長)



大坪豊寿さん



光富祥先生



山崎正雄先生



横畑健所長



モデレーターの谷聡子さんと、
ナビゲーターの草地に史さん

はそのような場で活躍してほしい」というお話に、感銘を受けました。

高校生や発達障害当事者からもたくさんの質問が出され、有意義な会となりました。

今後は積極的に県内の中学校、高校に「こころの健康出前講座」の周知をはかっていきたいと考えています。将来的には一般診療科のスタッフはもちろん、民生委員、保護司の方など医療従事者以外の方も巻き込んで市民活動につなげることをめざしたいと思います。

参加者アンケートから

- 人と人のかかわりのなかで自分を認めてもらえる環境、大切にされていると実感できる環境。人を傷つけ、傷つける痛みを知る体験で乗り越えなければならない壁。自分を振り返る機会になりました。自分の子育てはどうだったのか、私は「普通」をどうとらえているのか。いろいろ考えさせられることも多く、貴重な学びの時間となりました。(医療関係者)
- 心が豊かになりました。今日からかかわる人に対して、自分のスケールだけではなく気持ちをくみ取ることができればと思いました。人は人が支え合うから生きていけると改めて感じました。(福祉関係者)



第18回 精神科認定看護師受講資格審査のご案内

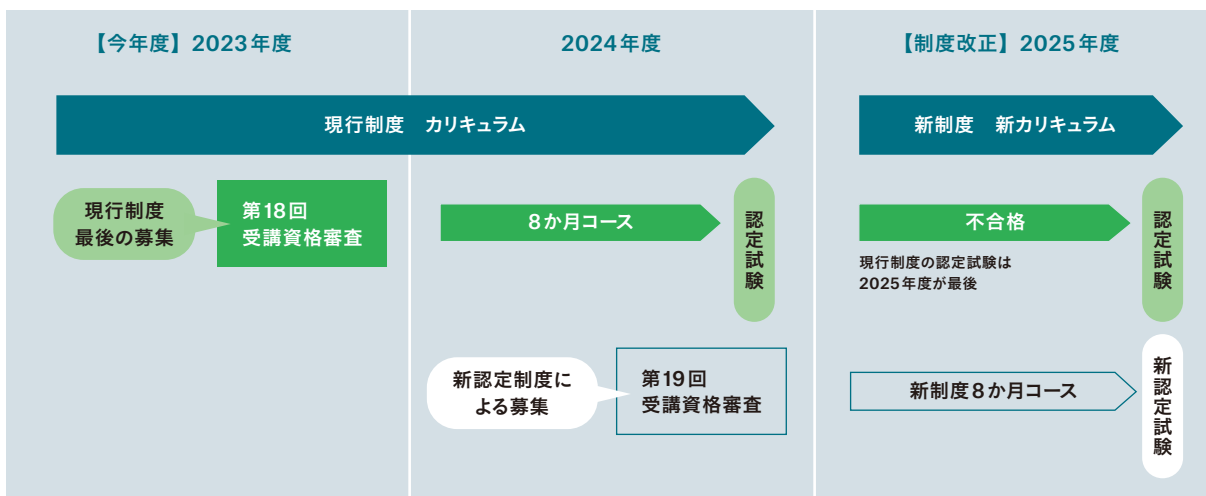
2024年度の精神科認定看護師教育課程は、現行制度で実施します。
つきましては、受講生を下記のとおり募集します。

なお、2025年度に精神科認定看護師制度を改正するため、現行制度による受講資格審査は、今回が最後になります(下図)。そのため、2年コースの変更や延長申請などについては、規定と異なる運用を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。

募集人員	80名(8か月コースのみ募集)
出願期間	2023/9/1(金)～2023/9/30(土)(必着)
出願資格	別記、表1(1)～(2)の要件を2023/9/30時点で満たす者
審査科目	小論文、書類審査
審査日程	2023/11/8(水)
開催方法	小論文はオンラインにより実施
資格審査料	会員16,500円(税込)/非会員33,000円(税込)
審査結果	2023/12/8(金)、本人へ書面による通知 また、合格者の受験番号をオンラインで公表

表1 出願できる者の要件

- (1) 日本国の看護師の免許を有すること。
 - (2) 精神科認定看護師として必要な実務経験を積んでいること。ここで必要な実務経験とは、看護師の資格取得後、通算5年以上の看護実務に従事し、そのうち通算3年以上は精神科看護実務に従事していること。
- ①出願者は、臨床で実務を行っていること。
②出願者が臨床で実務を行っていない場合は、精神科看護を实践する場を1か月に28時間以上(週7時間程度)もち、それを証明すること。



図：現行制度の今後のスケジュールと精神科認定看護師制度の改正

オンデマンド配信

精神科認定看護師をめざす方のための説明会

5/30(火)に開催した説明会のライブ配信の録画を、オンデマンド配信しています。制度の概要から精神科認定看護師の実践、受講の実際まで、さまざまな内容を紹介しています。

【申込期間】12/15(金)まで

【配信期間】7/3(月)～12/22(金)

【内容】精神科認定看護師制度の概要、精神科認定看護師実践報告など

【費用】無料

【申込方法】マナブルからお申し込みください。



受講資格審査や説明会のオンデマンド配信など、精神科認定看護師制度へのアクセスは、コチラ！

<https://jpna.jp/education/nintei>

お問い合わせ先 一般社団法人日本精神科看護協会 認定事業担当 TEL：03-5796-7033

いまだからこそ見直そう！災害対策

第3回 DPAT（災害派遣精神医療チーム）の活動の実態

今回は前回に引き続き、
被災地で災害支援を行うDPATの
活動の実態を紹介します！

東日本大震災の反省をふまえたDPATの活動



河畠 譲さん
(DPAT事務局 次長、
国立病院機構本部DMAT
事務局員、半蔵門のびすこ
こどもクリニック 副院長)

発災時の迅速な対応が不可欠！
私は東日本大震災ではDMAT（災害派遣医療チーム）の隊員として救護活動を、また精神科医として支援活動を行いました。翌2012年には、厚生労働省の医系技官としてDPATの立ち上げにかかりました。東日本大震災では、精神科病院の孤立や機能停止、患者さんを安全な場所に搬送することができないなどの困難が生じました。また、精神保健医療に関するニーズ把握の課題、保健所など行政との連携についての課題、平時からの災害訓練の課題などがあげられました。このような反省をふまえ、2013年にDPATが誕生しました。

2016年の熊本地震では、私はDPATを指揮調整する立場としてニーズアセスメントや支援を行いました。その結果、倒壊の恐れがあった7つの精神科病院の約600人の患者さんをDMAT、自衛隊と連携して、犠牲者を出さずに搬送することができました。

発災4日目頃からは、避難所で自殺企図や他害行為などの緊急対応事例が発生し、避難所における支援活動を開始しました。まずは、関係団体が各避難所のニーズを情



石田正人さん
(DPAT事務局インストラクター、神奈川県立精神医療センター 看護師)

報共有し、全体のコーディネートを進めました。発災約1週間後からは、急性ストレス反応（不眠、不安、抑うつ症状の増悪）への対応や、疲弊した支援者側のサポート、精神科病院の診療補助等の復旧支援を行いました。

あくまでも黒子として

DPATが発足して10年が経ち、地域における災害支援関係者間の連携が進んできたと感じます。復興はその地域の人々を主体にしていくものです。私たちDPATはあくまでも黒子としてその地域に合わせて支援方法を考え、提供することが大事だと痛感しています。いまま私は「被災した子どもたちにどのようなケアが必要か」を大人に伝えて回っていますが、各地域でケアできる人を育てていくことが重要だと考えています。

看護師の方々はコミュニケーション能力が高く、多機関との連携や調整、生活サポートなど多角的に力を発揮しています。ぜひその力を災害支援にも活かしてほしいと思います。

患者さんの日常を守るために、看護の専門性が活きる

私は熊本地震発災後、1週間以内にDPATのメンバーとして支援に入り、各病院のニーズを調べ、病院の診療継続支援や、患者さんの搬送の調整などを行いました。

災害時には、食事やリネン類の提供など日常生活に欠かせない業務も崩壊します。私はその部分をいかに補完し、通常の形に戻すかという視点で優先順位をつけていきました。病院全体の流れを知っている看護師だからこそ力が発揮できると感じました。また、患者さんの反応が、災害という異常事態における通常の範囲の反応なのか、ストレス反応など「病理」としてみたほうがいいのかを判断する際にも、普段から「人となり」をとらえている看護職の情報を聞くようにしました。

多くの災害支援を経験したなかで、黒子としての立場に立つことで、質問内容や聞く順序を工夫しながら相手の情報を聞き出し、先のプロセスを考えていく重要性を理解できるようになりました。

また、災害時は資源も人材も少なく一人では何もできないからこそ、仲間に頼ること、同じ情報を共有して連携していく大切さを実感しました。これらは普段の病院での看護にも生きています。

まずは、災害時には自分の病院を守るというのが一番大切です。その中心である看護師は、自病院を守る方法や外部の支援の受け方を普段から学び、対応力を上げるためにも、ぜひ災害支援の研究を受けてほしいと思っています。

おかげさまで創立70周年

東洋羽毛 presents
3号連続特別企画

part 2

地球にやさしい羽毛の循環
「TUK Link Project」

3号連続特別企画

SPECIAL CONTENTS <Part 2>



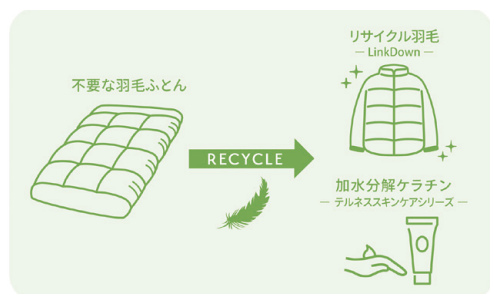
創業以来、お客様に高品質な羽毛ふとんをお届けすることに向かい続けてきた私たちは、原料である「羽毛」を貴重な「資源」として捉えています。

限りある天然資源を大切に、持続可能なものづくりを推進しています。その一環として進めているのが、羽毛を有効活用する取り組み「TUK Link Project」です。

羽毛製品は長年使用された後に役目を終え、廃棄処分されることが一般的です。しかしながら、本来、羽毛は耐久性に優れた丈夫な素材です。役目を終えた羽毛製品の下取り・取引を行い、その羽毛をリサイクル羽毛「LinkDown」として再生しています。

軽くてやわらかであたたかな羽毛の特性を最大限に生かしながら、次の世代へと受け継がれるよう、循環型リサイクルの取り組みを行っています。

健やかな眠りを支える羽毛ふとんづくりを通して、「人にやさしく、地球にもやさしい企業」をめざしています。



引取り可能なふとんの種類は、羽毛ふとんのみです。羽毛以外のふとん類や、リサイクル羽毛として活用できない物は引取りできませんのでご了承ください。

ご利用ください
東洋羽毛の「下取り」「引取り」

東洋羽毛では、お客様のもとで役目を終えた羽毛ふとんの下取り・引取りを行い、リサイクル羽毛「LinkDown」へと再生させ、アパレル製品の素材に活用しています。

また、羽毛から加水分解ケラチン（タンパク質）を製造し、工業用途やオリジナルスキンケア商品（テルネスシリーズ）にも役立てています。

これらの再利用には、独自の精製工程「HARUO工程」の技術が活かされています。羽毛を単に廃棄・焼却せずに、リサイクルを促進することで、温室効果ガスの削減にも貢献しています。

私たち東洋羽毛は、上質な羽毛ふとんの製造・販売を通して、健康的な生活をお届けしています。おかげさまで、創立70周年を迎えることができました。人にやさしく、地球にもやさしい企業をめざして、弊社が取り組む環境保全活動について紹介します。

簡単！ご自宅まで集荷引取りのお申し込み

1

弊社ホームページのお申し込みフォームより、ご連絡ください。お近くの営業所またはお客様相談室への申し込みも可能です。



↑こちらから

2

宅配便または営業社員が、不要羽毛ふとん引取りキット（梱包袋、送り状など）をお届けします。送料は無料です。

3

発送の準備ができましたら、指定の配送業者に回収をご依頼ください。ご自宅まで集荷に伺います。

※こちらは引取りの手順です。下取りをご希望の場合は、弊社の営業社員にお問い合わせください。

第48回定時総会報告

第48回定時総会は、2023/6/24(土)、品川区立総合区民会館「きゅりあん」において開催されました。代議員制となり初めての総会でしたが、120名の代議員の方に全国よりお集まりいただき、活発な質疑応答が行われました。書面および総会議場における集計は右記のとおりとなりました。

議案		賛成	反対	無効/棄権	承認に必要な数
第1号議案	2022年度事業報告および決算報告、監査報告について	142	0	4	出席者の1/2
第2号議案	定款変更について	142	0	4	構成員の2/3
第3号議案	役員報酬支給規程の変更について	142	0	4	出席者の1/2
第4号議案	2024年度正会員会費の額について	141	0	5	出席者の1/2
第5号議案	役員改選について	142	0	4	出席者の1/2
第6号議案	2023年度役員報酬上限額について	142	0	4	出席者の1/2

新たな役員体制が決まりました——理事の紹介

第48回定時総会後の同日の臨時総会で役員(理事16人、監事3人)が選出され、新体制となりました。引き続き、よろしくお願いいたします。



代表理事・会長
吉川隆博(きっかわ・たかひろ)
東海大学医学部看護学科
(神奈川県)

6月24日、定時総会後の臨時理事会において、引き続き会長に選任されました。協会理念の実現に向けて責務を果たしてまいります。



代表理事・副会長
工藤正志(くどう・ただし)
医療法人久盛会秋田
緑ヶ丘病院(秋田県)

精神科看護への期待に応え理解を促進していくために、今後も会員のみなさんと力を合わせていく所存です。よろしくお願いいたします。



代表理事・副会長
東 美奈子(あずま・みなこ)
訪問看護花の森
(山口県)

誰もが安心して安全に暮らせる街づくりをめざし、世の中から信頼される精神科看護ができるように他団体とも協働し、活動を展開します。



代表理事・副会長
中蘭明子(なかぞの・めいこ)
公益財団法人慈愛会笹貫訪問看護ステーション愛の街(鹿児島県)

代表理事に就任しました。長年の精神科看護の経験と現場の声を届けるべく、全力でがんばります。よろしくお願いいたします。



業務執行理事
金子亜矢子(かねこ・あやこ)
一般社団法人日本精神科看護協会(東京都)

精神科看護の感動を届けられるよう、個々の違いを受け止め、お互いを尊重しあえる活動をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします！



業務執行理事
木戸芳史(きど・よしふみ)
浜松医科大学医学部看護学科(静岡県)

「日精看の会員であること＝信頼のおける専門職である証」であり続けられるよう、会員の皆様の成長をサポートしていきます。



業務執行理事
草地仁史(くさち・ひとし)
一般社団法人日本精神科看護協会(東京都)

精神科看護がさまざまな面で転換期を迎えるなかにおいて、いま以上に会員の皆様が専門職の力を発揮できるようサポートしてまいります。



業務執行理事
中庭 良枝(なかま・りょうえ)
一般社団法人日本精神科看護協会(東京都)

精神科看護職の存在価値を社会に向け発信すること。また会員の皆様には、具体的に活用できるものを発信することを目標にいたします。



業務執行理事
西岡由江(にしおか・よしえ)
社会福祉法人ファミーコ高知 高知ハビリテーリングセンター(高知県)

精神障がい者への直接的な支援だけでなく、家族、地域へと意識を広げ、地域づくりも視野に入れた看護が展開できる取り組みを企画していきます。



業務執行理事
比嘉将和(ひが・まさかず)
沖縄県立宮古病院(沖縄県)

現場の意見をいただきながら、会員の皆様のやりがいと専門性を発揮できるよう、魅力ある協会をめざして精いっぱいがんばります。



業務執行理事
山崎千鶴子(やまざき・ちづこ)
一般財団法人精神医学研究所 附属東京武蔵野病院(東京都)

25年前、精神科看護に携わったときから、「精神科看護の素晴らしい力を社会で認められるようにする」というのが私のミッションです。



理事(新)
明間正人(あけま・まさと)
医療法人昨雲会飯塚病院(福島県)

このたび理事に就任いたしました福島県支部の明間です。誰もが笑顔に近づけるように、できることをしっかりとやっていきたいと思います。



理事(新)
竹居由香利(たけい・ゆかり)
社会医療法人加納岩日下部記念病院(山梨県)

精神科看護の現場にある人と人とのかわりが、その専門性としてあることを大切に活動したいと思います。



理事
花田政之(はなだ・まさゆき)
医療法人白日会黒川病院(新潟県)

このたび、理事に就任しました新潟県支部の花田です。微力ではございますが、会員の皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。



理事(新)
増満 誠(ますみつ・まこと)
福岡県立大学(福岡県)

会員の皆様が誇りを持って生き活きと働ける環境とワクワクする教育の機会の創出をめざし、微力ですが邁進したいと思います。



理事
眞鍋信一(まなべ・しんいち)
社会医療法人北斗会さわ病院(大阪府)

このたび、2期目の理事を拝命いたしました。活動理念の実現をめざし、微力ながら努力してまいります。よろしくお願いいたします。

学術集会を開催しました！

2023/6/2(金)～3(土)、第48回日本精神科看護学術集会が北海道で開催され、会場参加者数は920名でした。第一会場では、吉川隆博会長による基調講演が行われ、好評を博しました。特別企画では、原田公久枝さん(アイヌ文化活動アドバイザー)より、アイヌの差別と共生についての貴重なメッセージを伝えていただきました。ぜひオンデマンドでご覧ください。来年の学術集会は、熊本県で2024/6/28(金)～29(土)に開催されます！皆様のご参加を心からお待ちしております。

2023 年度 会長表彰

第48回日本精神科看護学術集会において、6/2(金)、式典を開催いたしました。たくさんの来賓の方にご列席いただき、功労者7名、優良会員15名の方の表彰を行うことができました。

【功労者表彰】

秋田県 高橋恵利子(特定医療法人社和会菅原病院)
山形県 小玉 三正(日本精神科看護協会山形県支部事務局気付)
三重県 福田 晶子(日本精神科看護協会三重県支部事務局気付)
京都府 内谷 浩一(訪問看護ステーションユニネット・まちかど)
高知県 中山 智子(医療法人武田会高知鏡川病院)
長崎県 松尾 洋一(長崎県精神医療センター)
熊本県 北川 文浩(医療法人信和会城ヶ崎病院)



式典で表彰を受けた方々

【優良会員】

北海道 松田 隆行(医療法人北仁会旭山病院)
秋田県 山手 昭彦(秋田県立リハビリテーション・精神医療センター)
群馬県 竹生 行孝(医療法人原会原病院)
埼玉県 佐藤 亮介(社会福祉法人埼玉医療福祉会丸木記念福祉メディカルセンター)
千葉県 倉持 智行(医療法人社団柏水会初石病院)
石川県 坂田めぐみ(医療法人明仁会かないわ病院)
愛知県 則竹真生子(愛知県精神医療センター)
三重県 安田 美幸(JA三重厚生連鈴鹿厚生病院)
京都府 條谷 洋司(一般財団法人療道協会西山病院)
大阪府 梶田 陽一(大阪精神医療センター)
大阪府 時任 克博(大阪精神医療センター)
兵庫県 稲田 博昭(医療法人内海慈仁会姫路北病院)
和歌山県 日下 修(紀南こころの医療センター)
岡山県 松本 洋(梁風会さきがけホスピタル)
福岡県 伊岐 隆(特定医療法人社団相和会中村病院)

賛助会員からのメッセージ

ベッドを中心に、福祉用具で貢献しています！



日影行男(ひかげ ゆきお)
株式会社ランダルコーポレーション
特販部 部長



弊社は1985年の創業以来、ベッドを中心に福祉用具の製造・販売と福祉関連事業を通じて、介護・介助が必要な方やお体が不自由な方への生活の質(QOL)の向上に貢献してまいりました。

現在、日本は世界に類を見ない超高齢社会を迎えています。このようななかで、精神科病院においても入院患者さんの高齢化が進み、身体機能の低下からベッドを中心に福祉用具の正しい活用が安心・安全な医療現場につながることを期待します。

賛助会員として、より大きな役割を果たせる会社、より大きな存在意義のある会社になれるよう、継続的な取り組みをしてまいります。

Message from Supporting member

日精看ニュース No.769 2023(令和5)年8月22日発行

編集：宮本恵理子、鈴木 庸 / デザイン：TAKAIYAMA inc. / 運営：コッヘル / 発行人：吉川隆博 / 発行者：一般社団法人日本精神科看護協会
日本精神科看護協会 〒108-0075 東京都港区港南 2-12-33 品川キャナルビル7F
TEL 03-5796-7033 / FAX 03-5796-7034 / E-MAIL info@jpna.or.jp

「日精看オンライン」は
パソコンでもスマホでも

➡ jpna.jp

